国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

帝国図書館藏

6. 4. 13
購求

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

正

○鐘巡

鵜飼乗

雲雀山

半蔀

蟇鳴

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

鐘道

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

鐘馗

装束之覚

初シテ　面アヤカシ　白鈍色　黒頭　水衣ナカシ
腰帯　扇
後　面小癋見　透冠　色鈍色　赤頭
狩衣　大口　腰帯　剣

舞附

シテ羽幕ノ内ニテ此一句謡フ
あるかなきかの姿にかくれつゝ
ト屋根より出る　何事かそこは
シテ　彷徨しまいらんの面目
かくれ悪鬼ぞと思ひ国土に
まちうしあり思賢人知るし知る
ものゆゑ現し奇端なれば屋根
足ヲメロキヘ二足ツメル　橋掛ニアリテモ二足ツメル
世事世義してしるべし　正
是ハ如

しきの世をうれさてゝ世をいとふ
所人をシテ　ワキヘ　ワキヘ　ワキヘ　ワキヘ
鐘馗とゝ　所進上なり及第のみち
かゝるもしも親分とゝ所へ
かゝるもしもあり　正　第ゝ鐘馗の世事
世をかくもかゝ進上なるうるのまゝ
きんゝ所しまいらんシテ上セル　中ゝなりと
ゝゝ鐘馗　ワキ　相すさ所しまいシテ　ワキ二足ツメル
らか　上言　正　叶世義の事もなり
右ウケ　謡ふゝいちゝ老松すてゝ風ふく
ゝ　ヒラキ　角ハ行　ちかや何事もお
ゝ　ヒラキ　角トリ　たり廻り
りゝ　角トリ　ゝ香し所ふゝ
ゝ　ヒラキ　ヒラキ
世をみちいつ所ゝとうさるゝ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

十二　鍾馗

早笛

是はもろこし終南山の麓とて住居とする者なり扨も秋麦の関
ゆ為さきれば作る。唯今帝都
ふおとむきは　終南山を立出て
ゆく程草も露分て来ぬけて
遠村は煙たち人屋を見てう
ほう者海路をかよる思ひは鈎の
小舟をかえす浪よる程もむさる
あり〳〵　（キリ）幕ノ内ニテ此一句諷フ
あるとは成
稚人よりつきまれば　出ル　早笛
行事をそ
（ニテ）　（ニテ）
秋をそ　極楽の御門
あるは悪鬼をそ〳〵国土を守

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

船辨慶

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

舟辯慶

裝束之覽

シテ　面若女小面ノ内　着附箔　上着唐織　扇
カツラ　同帯　物着ニダ見烏帽子キル
面夏盛ニテモ
判官　梨子折　白鉢巻　着附唐織　腰帯　大口
太刀　扇子　床机　法被　袖トル
シテ後　面アヤカシニテ月カワヅノ内　白鉢巻　黒頭
着附厚板　法被　半切　太刀　長刀腰帯
鍬形打　後ニテ男増髪ヲモ用ル由六十郎中上
平六左も同間合ノ仏同様ナリ

判官舞様

●脱ノ先ヘ立次第ニテ出正先ニテ足トメロキト向合次第不詳地次第ニ正●まゝ〻〻〻

舞附

ワキ　さて後藤内山家へ帰りてよしいうや

幕上ル　汁食のうちに後藤内涙ぐみ居るうめき様

武蔵かやうしてん　シテ出ル　むさし殿とは何ら

思ひしや何の為めに涙ぐみ　足トメ

ワキ正　さうしん人共の帰るを見あるに我

兵の内涙は共近の出来りあるとは非ず

よ思ひ出ると雖も今は何ぞやらん然者

物語に出来ると雖へ出来り

れしものうるふて　シテワキへ　共は思ひとらるる

御身何く迎を出給とて思ひしに　オモセル正　報

みてを報ぜ況人にもなり其方のとるあや

は　ワキ　御むとて人物出るを此方とは

き　シテワキへ　つくら共に思ひ出大ふ成て

帰りて　ワキ正　あら事ことくしや此

出帰りを所要とて人　シテ　居て物を来

たちに共は武蔵殿の出をらひと思ひ給

よ　ワキへ　ふて人帰りを出るとは　ワキ　夫

は出るかとて人きは出来て人いうて

ト　シテ　人物の出来りて人　ワキ　面下ノキ心

ふる後藤内殿

思ひ給を蔵人とあり御所の共迎

を　ワキ　ふて人とあり御所の共迎

れ出給ふ御ふくの事やとを思ひ

なりへ申ふて共出給ふ御ふ帰りは

節を待へ　シテ　物は御ふ物共内に寄て

出来りて人ト　キミテ　ワキ　アト　ツレ　ワキ　アイ入り中

へ出判官へ向　下ニ居ル　シテ　拝コシテ立寄

正面ムキ大　ヨリ直ニ中へ　出ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

〈序ノ乗切ニアレハ政カクリ中〈乗モスル

〈後早笛二段
太コチラカケ
幕上長カ
又ヲ内ニメカ
イコミ幕ノ
内ニテ面ケ
ケ出ルシテ程
ノキ、ニテヒ
ラキ長カア
キ程トカタ
フ
後シテ出ル時
マツハ不流

少シ面下ケ装ナガラ正直シ
シテ上ニ烏帽子ヒモトキステ
七テシヲリナガラ立
シテ程ノ方ヘ行
行ヲリ足トメ
後シテ手下ケ入ル
利官
平氏の一類日王上を抑奉り一門の月日雲
霞のごとく流ようにて見えしかども
花は根ざし天皇九代の後鳥羽の
ハ抑
ハ栄ヒ
利官見ル
長カサシ出シ右ノ方ヘ出シテ長カワク
ヒ
利官見ル
浦風の
上地
利官見ル
左ヲ引利官キメル
長カトリ直シ左ノ下ヨリ正ヘスクヒ
テ左ヘ廻シリ正面ヨリシキ長カツキ出シトリナラシトゞアガリ
左ヲ引シテ扶ノ方向左ヲ引ナガラ長カイコミ左ヘム
利官メキルシテキメル
右ヲ引シテ扶ノ方向左ヲ引ナガラ長カイコミ左ヘム
地
流の波のよりをとひらしほとけ
一ル
地

△坐ヘ行小足ヲ正ニシテ

引れて薙刀を右手より来り薙ぎて対戦

つゞおをさわらたる舌　扇を打うつて

のんふきもりふきもり　長刀及ラウヒヒヨノ両手ニテ上ヘアゲ判官ヘ上ヨリ切カケ扇直ニ先ヘ扇ヨリ切ル此時判官太刀ヲ合ス

右トビロヘリフリシク　判官ヒロヒニライ両手下ヶ左ヘ足リ

多ハ矣蒙おしあつてうちあわをとるく

けつ後ゝと陽殺さらゝと　正ムキ。

○ロキ正面ヨリシテカニハライ

方落三世南方軍兵利度奴　判官向イナガラ長カガブリ

ロキ巻ヲウキヲシヘ向ク　又判官分ケ

方重剛殺奴此世中夫大変不動明王のさ

長刀左ノ手ニテ利ブリ　橋カリ行

いくふ多ゝく　行いのられ　悪霊成敗

長刀右手カケ利ブリ　ニラム長刀捨太刀ヲ捨ノ後ノ上ヘアゲ

をゆるれハ兵蒙ゆるよ力をつゆ成ぬ

こきのけみ沉わるゝられハ　陽殺蒙ゆハ

判官足手ニテ切ツケ判官ヨリ切ラヲリシキ両手ニテウケ　正面出太カカスゲ左イチツヘ

跡ヘトビカヘル正面ムカイ右ヒザツキ　キツサキツク

ゆるゝ薙ぎを返ゝ　ゝ行りの多又引返

橋カリ向イ右ヒザツキ又タテカ

左ヒザツキハシカリ行

よもられ流れ海ハ引　橋ふもられ流れて

左ノ又拍子二ツ跡ヘトビ

又ビカヘリ正面向イヲフシキ右ヒザツキ又タツ

沉ゆ流とて成ぬ

又

●海角のとゞ代かき出　手足ヒリニ判官ヘ向イ下ニ居　判官ヲ見ル表ハ右足リテモヨシ

●奉働初返ノ処判官ヲキメデツカくト行キ左ノ足ヲ舟ヘノル心ニテアトヘ飛下リソレヨリ左足リ

●波ハうゝひて尺ゝ　此時幕上ヲロシ早笛ニ又幕上ヲ後シテ出ル是ヲ兼後舟兼慶トスケ様ナルヿ観世流ニハ無之手幕切ルトスヿ石橋ヨリ外ニハナシ

日吉

表ヲ表ヲ　ヨヤウニイタシテモヨロシキ

由市十郎中上

●形る師代に子方ヘムヲナシ出ヒラキ一ヨヲ三居　●母子ニも立右ヘトリシテ柱ノキハ行左ヲ引ヒノ方ヲ見　●手切ニ扇タミヲカヲ左ヘトリ中ヘ行子方ヘ向下ニ右此来同断

●シテ先キヘハリワキヲトメルヿナシ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

七

能弁慶

[illegible]

今日男の[illegible]

つと定めて[illegible]

塔の傍に住居する武蔵坊

弁慶とて[illegible]

殿の頼朝の御代官として[illegible]

と云ひ[illegible]

月日のたつに[illegible]

ひなる者の詞言はんずる中

[illegible]

き沢[illegible]

[illegible]

[illegible]

と申[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

下向あり御事書ありなどあるとて
御歌を有へき為べき由報とこそ
宣しかは船にのりて津の国尼の
浦大和の浦へとゐい
始めつゝ頼朝義経不合のあり
既に流居しかあり　刑友　新宮都と
を迎へ奉りて都もちかきよ
西国の方へとゐう　まりこ歌
くも雲井の月ぞすむ情ある都
九郎御曹司を平家追討の都
出よとのたまへ唯十余人とゝ
ばもうとゐ給へ毎の上りちや
くも水の方へ定めき習ひ

高三位中将の人へ何とゝ石清水へ
と渡るとゐ神そ志る賢人とこそ
きこゆるを伏拝と彩へ給へ
振り給へ鬼も涙し出よとゐ
あらはよきりく　中内　清盛
給へ是こそや大和の浦に流れ
くゐ素ねの者のひろ御宿
乃事とゝ付うとるゐくゐかの
よ世屋敷を見せ渡るか　ねた　清盛
御入ゐそ　中　いや武蔵ふくゐ　ねた
只今何の為のゐおかくゐて
中　こんゐ我君と見る御供とて
御宿とゝ　ねた　こゝ奥の

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

波頭の滴あれば晴るゝ雨

[illegible]

陶朱公の勾踐を佐ひ會稽の恥を雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

日吉

和泉太郎 カヤフニイタシテモヨロシキ
由布十郎中上

・彩ち神代に子方ハムコナシ出ヒラキ一寸下居・面ハ立右ハ
トリシテ狂ノキハハ行左ヲ引ハクノ方ヲ見・手切ニ扇タミナカラ左ハ
トリ中ハ行子方ハ高下三居此末同断
・シテ先キハハリロキニテトメルナシ

舞辨慶
装束之覚

シテ　面若女ノ内　カツラ　同帯　着附箔　唐織　黒背肩
黒前折烏帽子
子方　梨子ヲ烏帽子　白鉢巻　着附厚板唐織　大口　側次　腰帯
太刀　黒背肩
後シテ　面メカ　アマロ　白鉢巻　黒頭銀形　着付厚板唐織　半切
三日月
法被　腰帯　太刀　長刀

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

波頭の滴あれば晴るるあめの光よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

半囃子舞方

早笛ニ成太コ手ヲ打長刀持立カイ込テ太コ坐ヘ行正ヘヒラキ長刀ツキ拵ヒハト詞出ス此末能舟ト同新●いのゝ祈いれアトシザリニ少シナガレ直ニ長刀カイ込右ヘ廻リみまこそ[illegible]ハト正ヘヒラキ指あん志ハト判官ヲシカト見テツカ〳〵ト判官ノソバヘユキ返ヒ〳〵トアトヘ飛シサリ目付柱ノ方ヘ右左ト出左ヲ引右ノ足左ヘカケテ足モヂリソリカヘリメ直ニ大小ノ方向大小ノ前ヘ行大小ノ前ニテ右ヲソリ込拍子ニツフミ直ニ右ヘトリ正向ナガラ長刀横ニメ両手ニ持下ニ居トメル

又

舞働ヨリ舞アテモヨシ左アレバ眼光々らみノ追ヨリ長刀持立カイ込テ太コ坐ヘ行前後を高もちト正ヘヒラキ舞働是ヨリ同新

又

舞働ニナリテ立テモヨシ左アレバヲヒヤヲヒヤリト吹出シ立太コ坐ヘ行 殺柏子フ二ズニ直ニ角ヘ行アト同新

舞働

ヲヒヤヲヒヤヲヒウヤヒウヤラリ身ヲ直シ正ヘ出カケ角ヘ行角トリ足トメズニ向ノ方ヲ見ナガラ判官ノソバヘ行カヽリ左ニテ足トメ判官ヲ見テアトヘ左右ト飛ノキ左ヲ引キメテモヨシ判官ヲジカト見此処後夫ヨリワキワキツレ見左ヘ廻リシテ柱ノキワニテ左ヘフリ向判官ヲ見右ヲフミ込ナガラ長刀左ガヘニ持又返直シ右ヲ引ナガラ長刀右カヽヘニモチ直ニ上ヨリ大キク一ツ切リ判官ヲ見テ長刀カブリ判官ヲ見込出右ノ足フミ込右ノコシ入レ長刀上ヨリツキ出シ直ニアトヘ飛ノキナガラ長刀引此処後長刀右カヽヘニ持左ノヒザタテ右ノヒザツキ下ニ居立直ニ立シテ柱ノ方向ナカラ右ノ足引長刀上ヨリ一ツ切左ヲ引長刀カイ込シテ柱ノ方ヘ行シテ柱ノキワニテ小廻リノ正ヘヒラキサヽニ右ヘ飛返リワキ正面ノ方向長刀ヘ左ノ手ソヘ下ニツキ長刀肩ヘアテウツムキ居ル

●半囃子ノ節 思道無尽の三つ目ヨリ始ル 左思道無尽のヨリ平家の一段迄シテニテウメフ

●半囃子ノ節 三付蓋段かも書こうぞノ返シナシ直ニ打ぬき移トウメフ

●舞ノ中ノ二段上ノ前ワキ坐ヘ行拍子フ公公拍子フ二ズ

●此府法殺命猫トリメル業

早苗ニ返キ、
番上ゲ正ツ
ウケ左ヲ引
長刀ヲ内ニ
メカイ込ヒ
ト（身ヲ引
出業ヲ入
ヒラキ長刀
ツキ飛出ス
口右方ヲ見右
ノ方ヘ三足ホ
ド出ヤガフ
長刀カイ込ム
振ヲヒラキ
長刀ツキ

▲打込シハイ

ヤミテ左フ
引長刀カ
イ込ヌス
リニ右足
カラ正出
⊕大リ前ニテ
目付柱ノ方

向サニ
右足踏
刀左ガフ長
刀左カフ（持
又返直ニ右ガ
ニ持ヤガフ
右ノ長刀ツキ出シ目付柱
ノキワニテ長刀ヲニ持直ニ
右ノ長刀ツキ出シ目付柱
カフル様ニ上
ヨリ大キクツ切
又左カニ持ヤ
ガフ左足引
左（恐返リ
目付柱ノ方
向下居立右ノヒザ立テ左ノヒザツキ

能ハ義経思ひもよらぬ海波のこと
ヤミテ左フ
引長刀カ
イ込ヌス
リニ右足
カラ正出
⊕大リ前ニテ
目付柱ノ方

向サニ
右足踏
刀左ガフ長
刀左カフ（持
又返直ニ右ガ
ニ持ヤガフ
右ノ長刀ツキ出シ目付柱
ノキワニテ長刀ヲニ持直ニ
右ノ長刀ツキ出シ目付柱
カフル様ニ上
ヨリ大キクツ切
又左カニ持ヤ
ガフ左足引
左（恐返リ
目付柱ノ方
向下居立右ノヒザ立テ左ノヒザツキ

知ぬ海に出舟のく
知ぬ海に出舟のく
知ぬ海に出舟のく

又

ゆびもあしぬ右ノ方ヘ三足出ナガラ長カカイ込ヒラキ長カツカズニ直ニカイ込ナリニテモヨシ　●又　うしをくばそのくの爪を如此指子フミテモヨシ

又

後シテノ出早笛二度幕上ケ右ウケナノ直ニユツメリト出橋ガヽリ三ノ松ニテ足トメ正面ヨリたノ方ヘ見巡シ判官ヲ見アトヘ少シ下リナカラたヲ引長カカイ込ヒトヘ身ニナリブタイヘ入テモヨシ

始終長刀ニテ舞時ノワザ

両袖トラズ二番メ修羅物ノヤフニたノ袖ヌク時ノワザ一通リノ業ト遠イル処中記之

●又義経をもたヲ引判官ヲシカト見夫ヨリたヘ巡リ●長刀元中〳〵大小ノ前ニテ目付柱ノ方向サマニ右ノ足フミ込ナガラ長刀たガヽヘニ持又トリ直シ右ニモチたヲ引カイ込目付柱ノ方ヘ出●うしをてばさてうくの爪を次くけたノ袖カヽシ判官ヲシカト見シテ柱ノ方向ヒラキシテ柱ノ方ヘ行小巡リメヒラキ舞衣其余同新●いのり殺ぐれシテ柱ノ方ヘアトシサリニナガレシテ柱ノキワニテ橋カヽリヘ向ナカラ長刀右ニ持カイ込橋カヽリヘ行●以ますカをトたヘフリ返リ判官ヲ見テたヲ引長カカイ込●扨あんまくバヨリ判官ヲ見込テツカくト判官ノソバヘ行返ちくいトアトヘ飛シサリ目付柱ノ方ヘ二足出たヲ引右ノ足たヘカケ足モシリソリカヘリメシテ柱ノ方ヘアトシサリニナガレシテ柱ノキハニテ橋カヽリヘ向ナガラ長刀右ヲカイ込橋カヽリヘ行右ヲノリ込柏子ニツフミ右ヘ飛返リたノヒザタテ右ノヒザツキたノ袖カブリ下ニ居立袖ハライ正ヘ二足アメ入ル

●早笛ニテ長カカイコミ舞臺ヘ入角ノ通リシテ柱ノ内ニテヒラキ長刀下ヘツカズスグニカイコミ拍ト強フテヨシ

雲雀山

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

雲雀山

助左ゑもん上ゲ

・久吉よりて、

・白もと[illegible]

・あらしきたるもうこくるハ

・まのんや。悪しゝん・このて柄の

・[illegible]

・[illegible]

・[illegible]

裝束之覽

初シテ　面深　鬘　同帯　着付箔
上着唐織イロナシ　扇

後シテ　尼ハダヌギサゲ花持出ル　其外初ト同断

子方　鬘　同帯　着付箔　上着唐織但フリ袖
扇

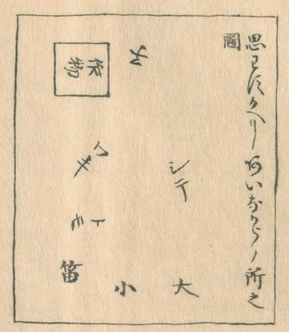
子方舞附

・離子方坐付ト後見作物出ス其内ヘ這入リワキ坐ヘ行下三居・シテ作物ノ戸明ケいゝふト云時シテヘ向・いゝふとふへきノ切ニ正ヘ直・山颪とゆろのうち為未ヲシテ戸ヲ明ケル時立出ニ三足出ワキ坐ヘ向下三居・乳母ハ子ヲシテヘ向シテ引立ル時立シテニツレラレテ入ル

・男ハワキツレナリ

・シテ持出ル花ハ作リ花ニ艸何ト限リタルコトナク先秋艸ノ類ナリタバ子テモトノ処ニタ処程くり持出ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



●男ハワキヅレナリ
●シテ持出ル花ハ作リ花ニ
艸何ト限リタルナク先
秋艸ノ類也タバネテモト
ノ処二タ処程ククリ持
出ル

いふりんこの幕上

羅附

囃子方坐付ト作リ物ワキ坐ヘ出スヒラキヘ入引廻幕カケ出ス居ルト引廻幕取ル
但シ口ワワキ正面ヘ向ケテ置ク

扇ナシ

何ト半かくれ光り　男出ル

足トメ

出る　シテ

▲入登リシテハ正面ノ方ヲ通リ舞台ヘ入リ作物ノキワヘ行両手ヲアクアケ右ハ立リ中ヲ居ルト引廻幕取ル

男

風て面影ぞ星出る

▲

優き半月の俤も星へ出物て消

俤面し　姫ヲ上

葉や立隠ふ塵ふ

吾身自ら　シテ上　正

嵐吹ふ

塵き　形乃　扇をかくし　影見

かしてい親知すくるく賤しきふ

ふい方くう少し　子方へ　もしきふもうと

くるの　下ニ向ケ　ふんくいうてふ優き

者切二正

さるのふとそき世ふ　かくれすむ

分ち山路ふれさくいんの河くもさぬ

くうとそき理も叶　子方へ　主ふいつまくの

分るくう面くくくく

同拍子

▲花をそめ

一声ニテ出ル松ニテ正面花ヲロニテラキ

▲さくらさまつ花物語

番匠うけいむ

の人ゝ袖乃香を

観世流ニハ花カゴ不用下カリニテモ有ベシ

ある菓をあつめ

行ゝ

上セル

あ

古ニモケダル花ヲ出シ見

面直シ舞臺ヘ入リ

ゝ

ミテ柱ノ内ニテ行ナリニ拍子

行ナリニテ拍子ヲ直シ花ニテ

カケリニテモヨシ三井寺ノ通リ

古ヘ三足出

いろ〳〵

▲酒をはて

カケリ三井寺ノ通リ

上地

正ハ出シテキ

古ハ尚花ハ左ノ手ヘ三足出ナガラ花イダス

正ハ直

ミテ上花ヲ出シ見

ヒラキ

古ヲケ

正ハ直出

ヒラキ

ミテ柱ノキハニテ正高足トル

トモ

トモ

正ハ直

ヒラキ

正ハ

ミテ

トモ

二足ツメ

正

花

下の帰てをのんいたきうしこしをか
もとをぬいの花の種いろ〳〵をもや花
をかをいいつ緑ぬるをもふうみ中おん
うをめをもろ〳〵うを　トモ　正　実あり〳〵ろき
賣物うを物をを花ぜ賣をまいをうを
謂のあるやうん　ミテ　荒もつうしこお
ろあるやめき緑海〳〵くいあこうろを
ゆうを　上曰　角へ行　角トリ左廻り
あ〳〵ろの枝ゆをおいおくをもあ緑をれ
もあるれやうち花れ見を曰し中のう
をもれをろあをのあるいれのもつむ
まいあ〳〵をもいし〳〵いあるれやいかし
ろをもをあるいれををれをや

ミテ柱ノキハニテトモヘ
右ノ方ヘサシ出
左ヘ向キナガラ花サゲ花ヘ左リ手ヘ
ツカイトトモヘ出テ右リニテトメ
花アゲ左右ト
トモヘ二足出ル

左ノ手ハナシ
ミテ　手下ゲ正
あさもをもし曰　正ヒラキ　死の笑をうろ
ろをいいををうをいつれかををし
をし海ををうを　ミテ柱ノキハニテトモヘ
ムヲサシノ出　足トメ　ヒラキ
花をうををを〳〵やをれをうをん中を
たうし　ト曰　をうをいの花緑買をろ
仲魚　ムヘトムテトモシテノ方ヘヨル　其時花ヘ左ノ手ヘ
二足ホド出トモヘ花ワタシ少シアトヘ下リ
ゆををををこしうをいをを
うろふををめをうをう
ヘ　弱ヌキ左持ナガラ
大ホノ上ヘ行正　上ヒラキ
をうをを
うれ緑足持をめ〳〵庭い　上曰　花をを
星かををやを〳〵海ををを〳〵をうう
たうをうを中　ヨ　歌ををやをれて黄
ををを緑をを緑し曰み躍躍い夜をの
人を折緑をを〳〵緑を〳〵をを夢緑中
胡蝶のあをを香ふめてををを

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

猶爰ニ巻裏記ス

雲雀山

加様ニ者ぞ者良れ初様萩の
右大臣実盛ニ仕へ下ル

装束之覚

一面 深井 襟 浅黄 着附 縫箔 上着 無色厚板 唐織 カツラ帯 無色 カツラ

後 右ノ肩ヌギ肩懐中シテ草花カタゲ一セイ本越帯 上ゲ

子方 直面 襟 赤 着附 箔 上着 唐織 カツラ

子方作物ハ入出ル

大小出坐附 作物持出 ワキ坐ヘラクスグニ引廻シ ラシトル

●質朴ニ両手下ゲ花賣ノ事故花ヤカナル事ナシ姥也

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

子方舞附

●雛子方坐付ト後見作り物引廻掛ケ出ス其内ハ這入リワキ坐ヘ行下ニ居●宮やくんそうに子方シテヘ●いろてゝ〻〻〻き歩切ニ正ヘ直ス●うつほ木にシテアヲアケ時立出二三足出ワキ坐ヘ向下ニ居●只位のミ子方シヲリ●宮や世のわハ子方手ヲロシワキヘ向居●乳母ワきをシテヘ向シテ引立ルトキシテニツレラレテ入ル●おこしにのセ子方先ヘ入

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

三人ガラミアフル　手ダケアキフ見ル

共泣のこゑ乃んうれ[illegible]や草を

宮の御社ひろあまの[illegible]

さめぬまよとやせくくせ

西ヲ下ムキ子方ノバハ行子一方ヲ一ニシテ指ヒロケル行

うは乳母内手をたくり[illegible]

ヒロケル　サニテ又カサニ右ノ肩

嘆よのせをくくせ[illegible]

なるさんの乃郎ハ金様

ヒロケル　正ニ右ヲ

ひろくる道ゑめくたきゑ

トタ指子

かへれみちそ出たるよ

又ワキニテケ様ニモトメル

立子方ノバハ行下ニ居子ノ両手ハ引立

子方ノセナカハ手アテ

ニテ柱ノキハニ近ツケ行

乳母内をを引立くり

興かのせゑ

ニテ柱ノキハニテ手ハナセ

せくり柱の四ときハ常ゑの郎ハ八重様内き

扇ダニ子ノアトニツキ入ル　ワキニテ柱ノキハニテユウケンヲトメル

かへる道ゑ見ゑ見ゑさもこのゑ道ゑ

出ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用